

# 総合目標の最終評価(案)

## 総合目標①：健康寿命の延伸

### 65歳健康寿命（要介護2以上）の推移



### 指標の推移と評価案

指 標		指標の方向	ベースライン値 (平成 22 年)	中間評価値 (平成 28 年)	中間 評価	現状値 (令和 2 年)	最終 評価(案)
65歳健康寿命 (要介護2以上)	男性	延伸	82.02 歳	82.62 歳	A	83.09 歳	A
	女性		85.14 歳	85.69 歳		86.21 歳	

●ベースライン値（平成 22 年）と現状値（令和 2 年）を比較すると、男女とも 1.07 歳延伸した。

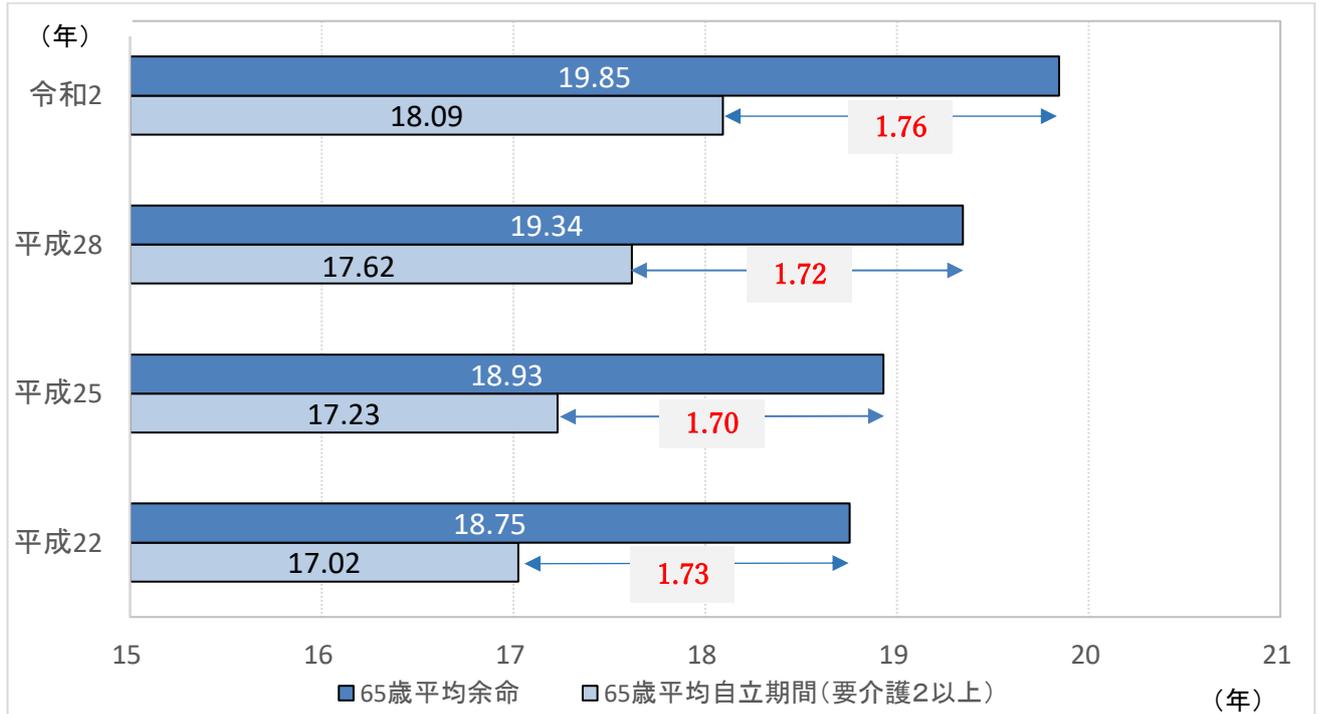
\*65歳健康寿命：65歳の人が要支援・要介護認定を受けるまでの自立期間の平均に65歳を足して算出  
(65歳健康寿命 = 65歳 + 65歳平均自立期間)

都では、65歳健康寿命の把握に当たり「東京保健所長会方式」を採用し、介護保険の認定者数データを用いて要支援1以上の認定を受けるまでの期間を用いた結果と、要介護2以上の認定を受けるまでの期間を用いた結果の2種類を算出している。

評価に当たっては、要介護2以上の認定を受けるまでの期間を用いている。

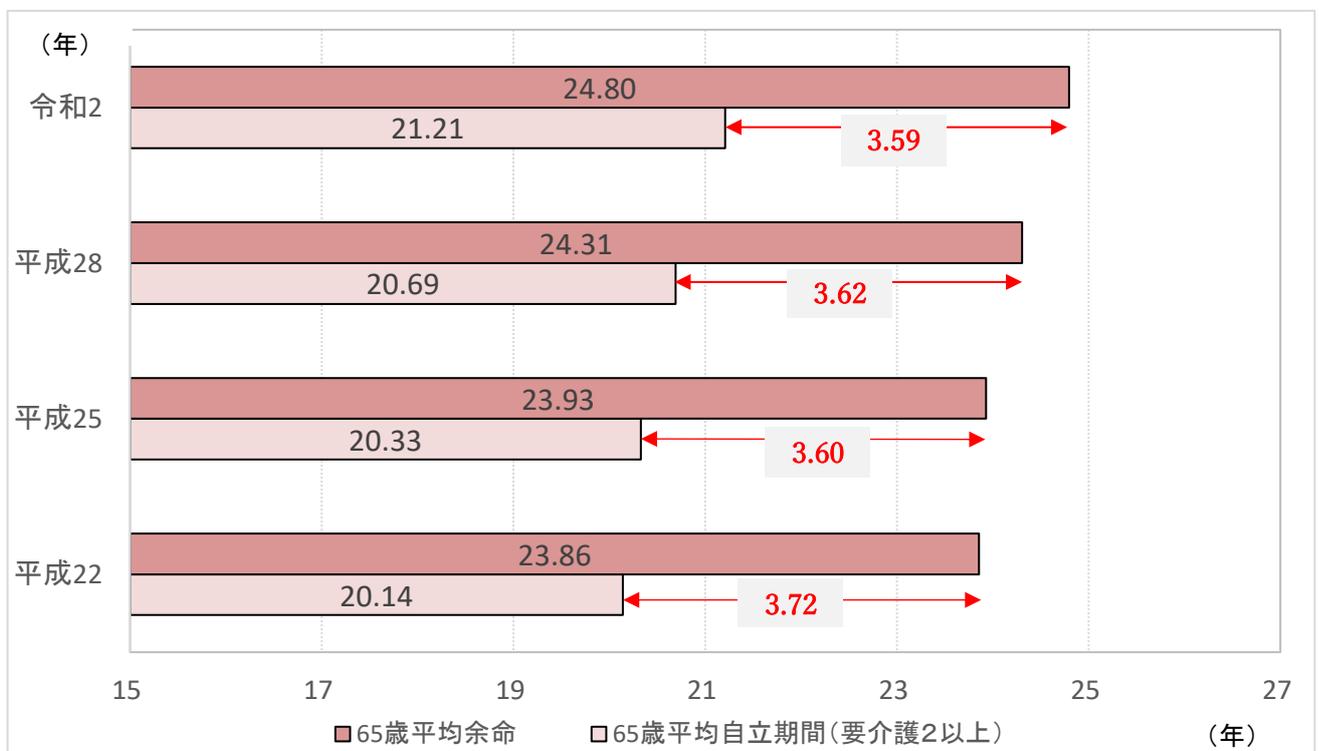
## 65歳平均自立期間（要介護2以上）と65歳平均余命との差の推移

＜男性＞



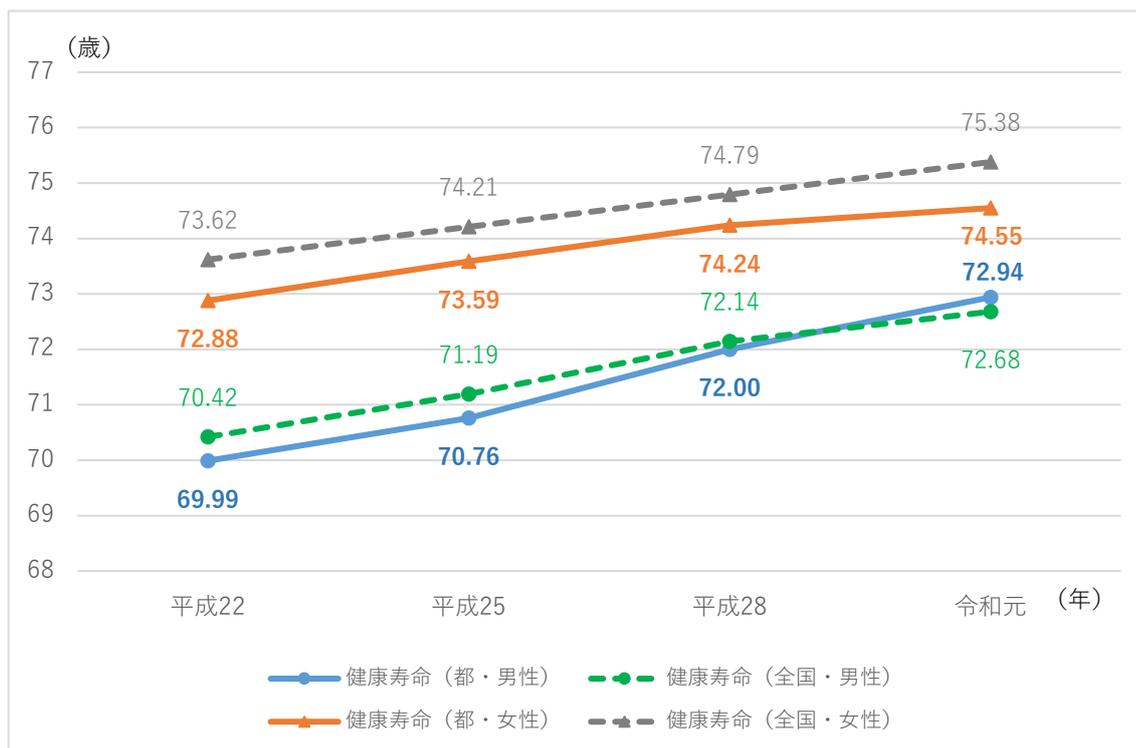
●平成22年と令和2年を比較すると、男性の65歳平均自立期間（要介護2以上）の伸びは1.07年（17.02年→18.09年）増加、65歳平均余命の伸びは1.10年（18.75年→19.85年）増加した。男性の65歳平均自立期間（要介護2以上）と65歳平均余命の伸びの差は0.03年延伸した。

＜女性＞



●平成22年と令和2年を比較すると、女性の65歳平均自立期間（要介護2以上）の伸びは1.07年（20.14年→21.21年）増加、65歳平均余命の伸びは0.94年（23.86年→24.80年）増加した。女性の65歳平均自立期間（要介護2以上）と65歳平均余命の伸びの差は0.13年短縮した。

## 健康寿命の推移（都・全国）



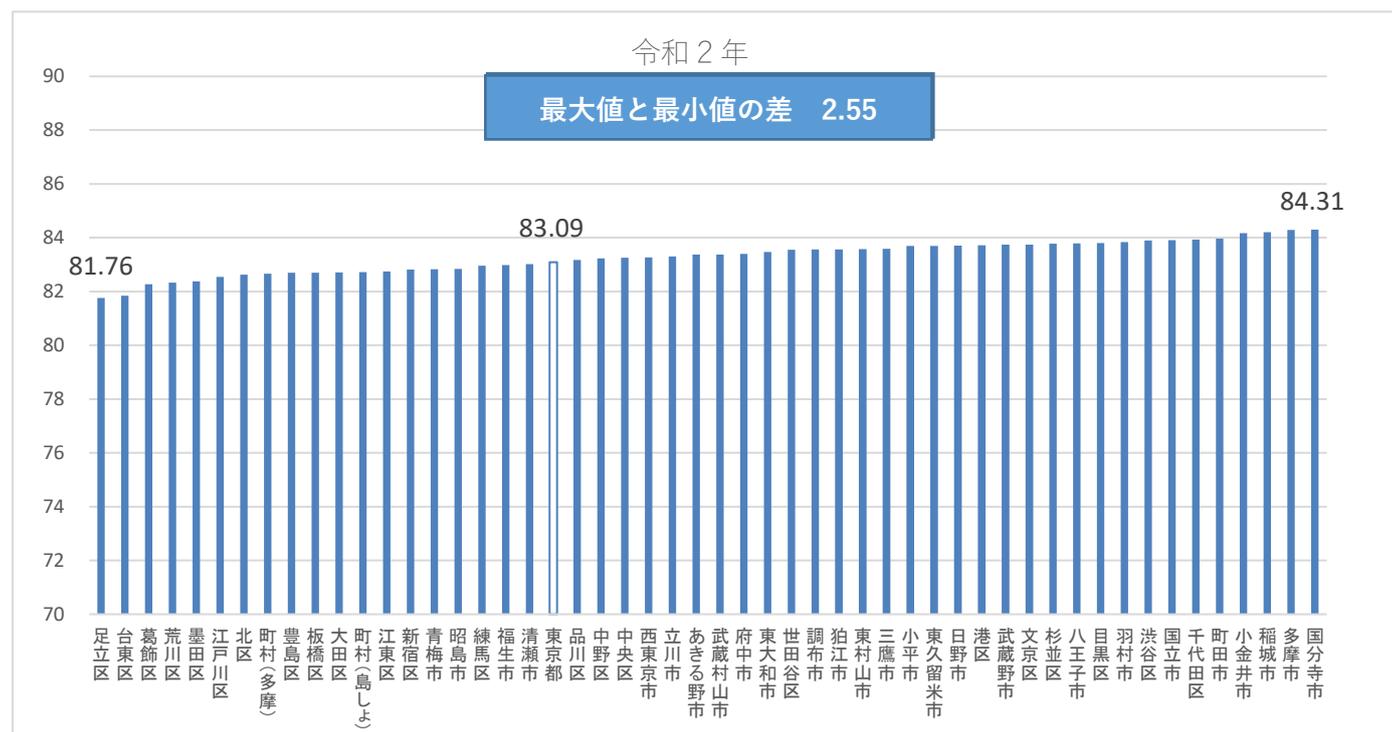
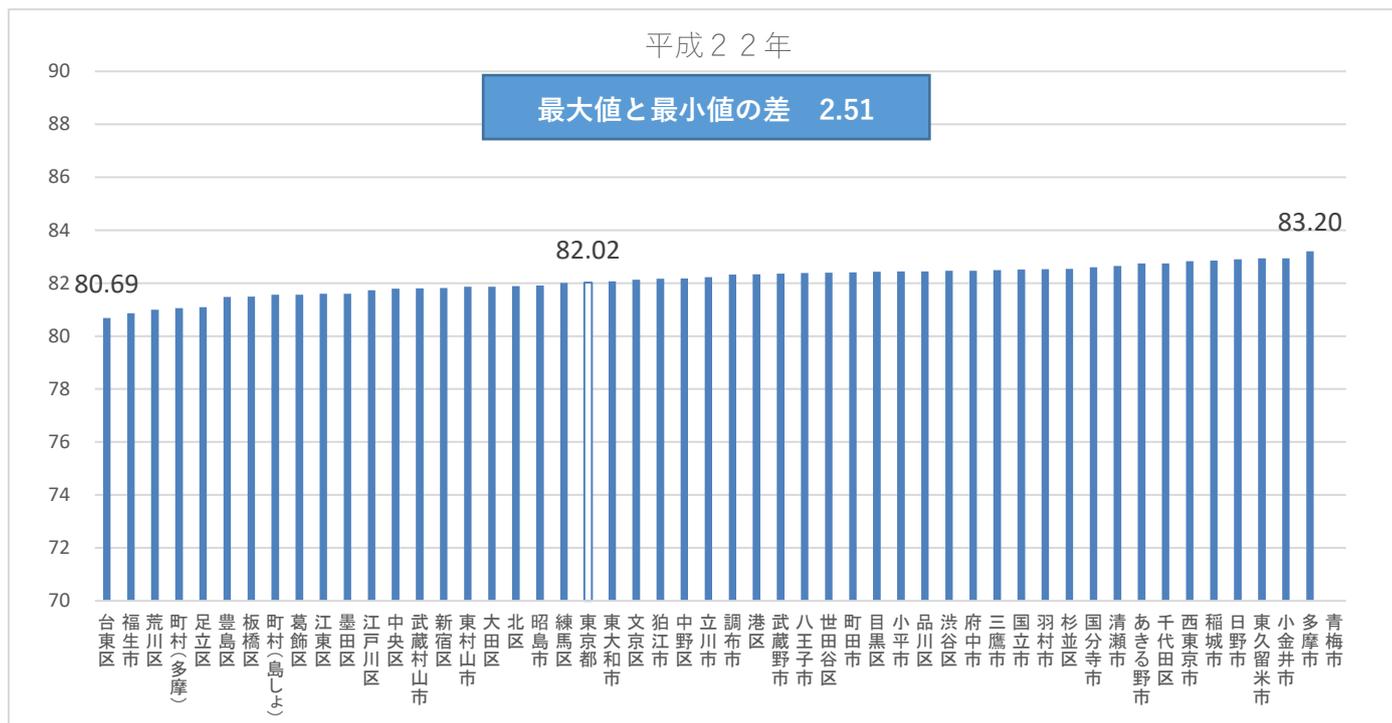
資料：厚生労働行政推進調査事業費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）

分担研究報告書「健康寿命の算定・評価と延伸可能性の予測に関する研究—算定・評価方法の検討—」

- 「健康日本21（第二次）」で採用されている、国民生活基礎調査のデータを用いて算出する健康寿命においても、都の値は男女とも延伸。令和元年の男性の値は、全国平均を上回っている。

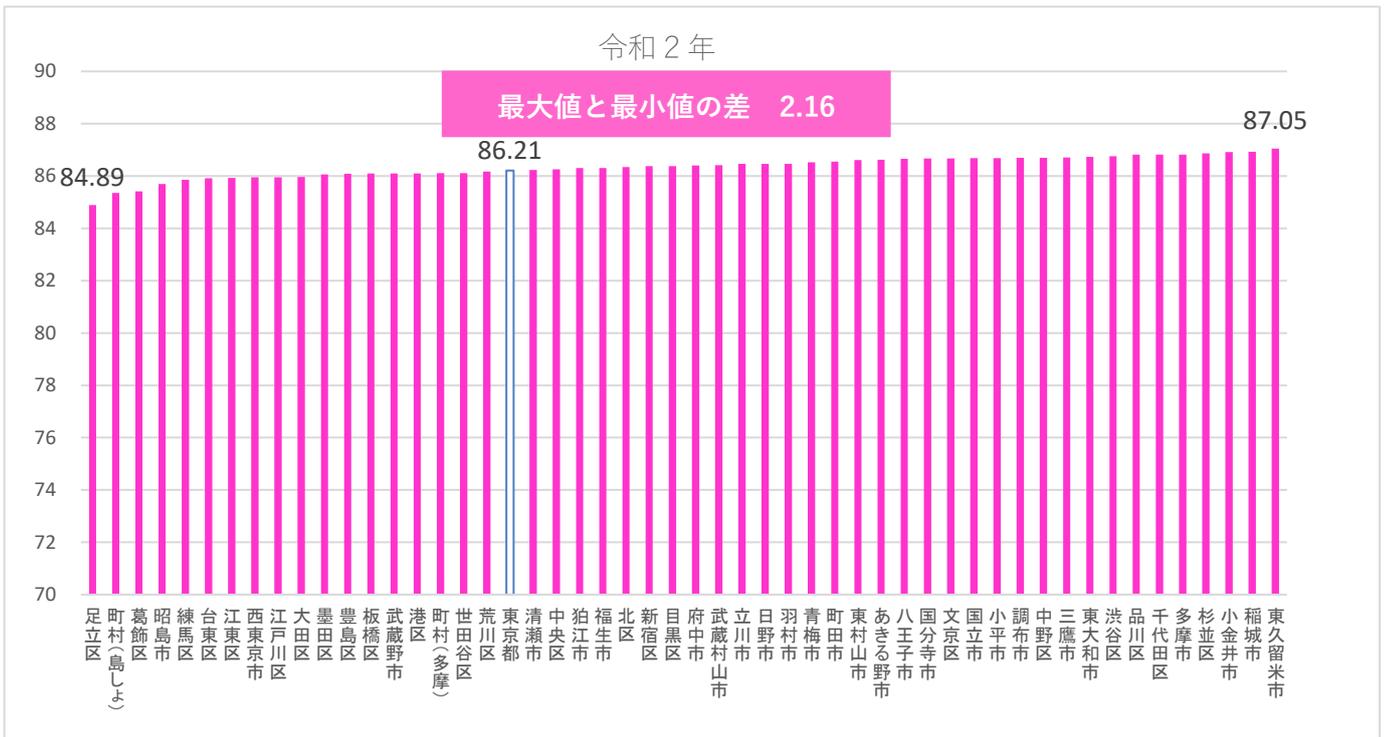
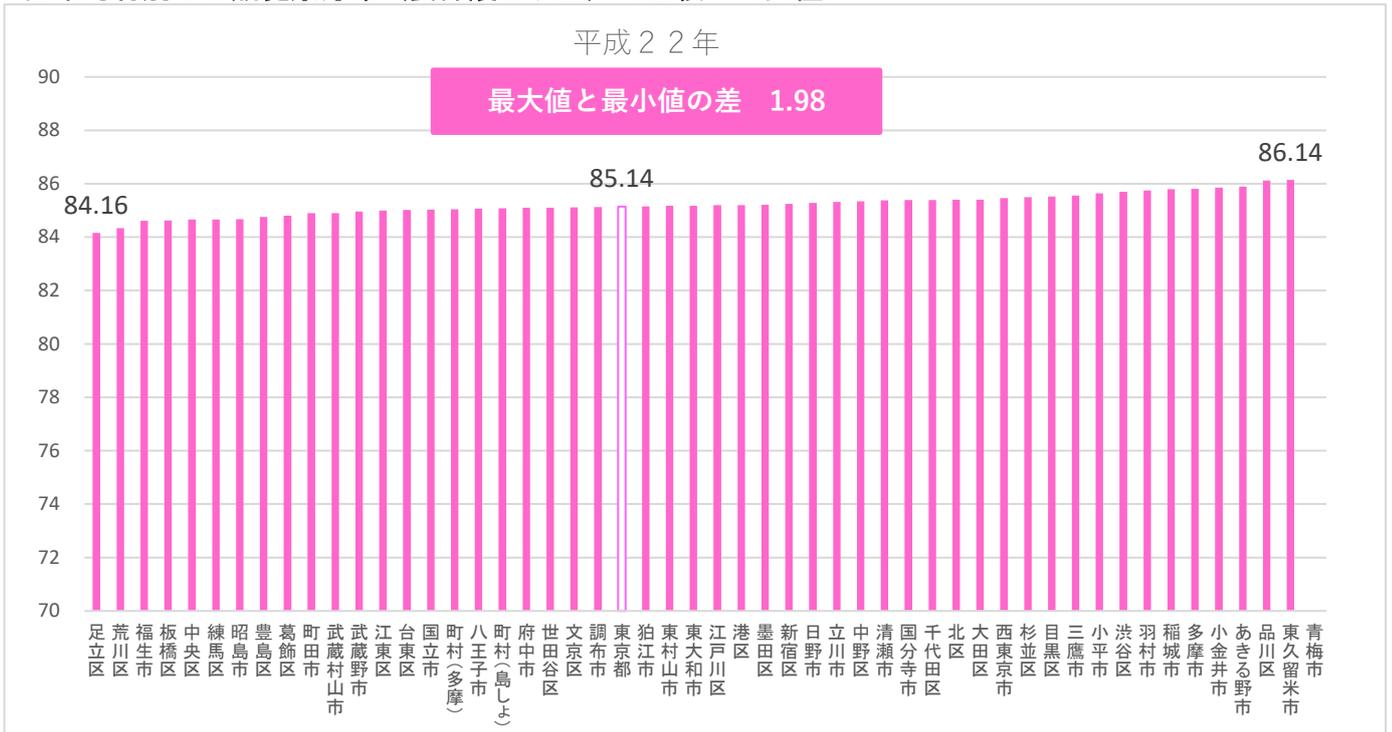
# 総合目標②：健康格差の縮小

区市町村別65歳健康寿命（要介護2以上）の比較 <男性>



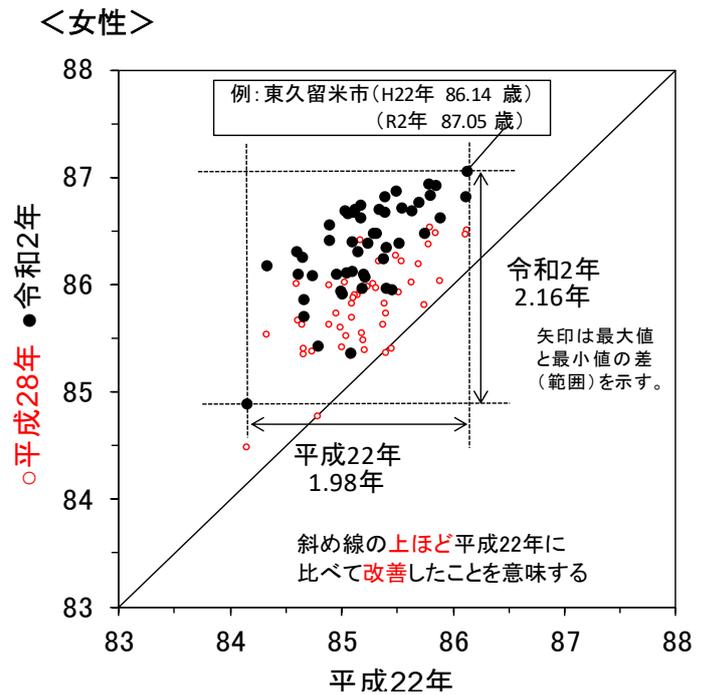
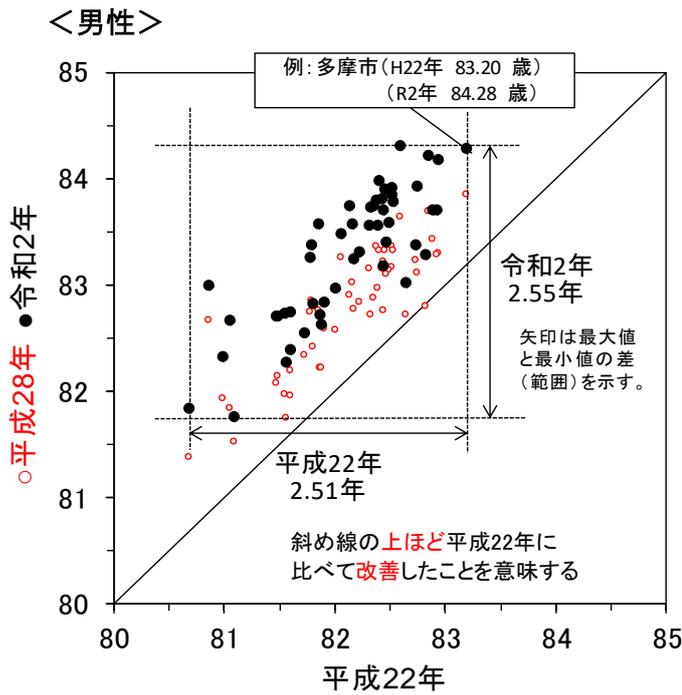
●ベースライン値（平成22年）と現状値（令和2年）を比較すると、最大値と最小値の差は0.04歳拡大した。

区市町村別65歳健康寿命（要介護2以上）の比較 <女性>



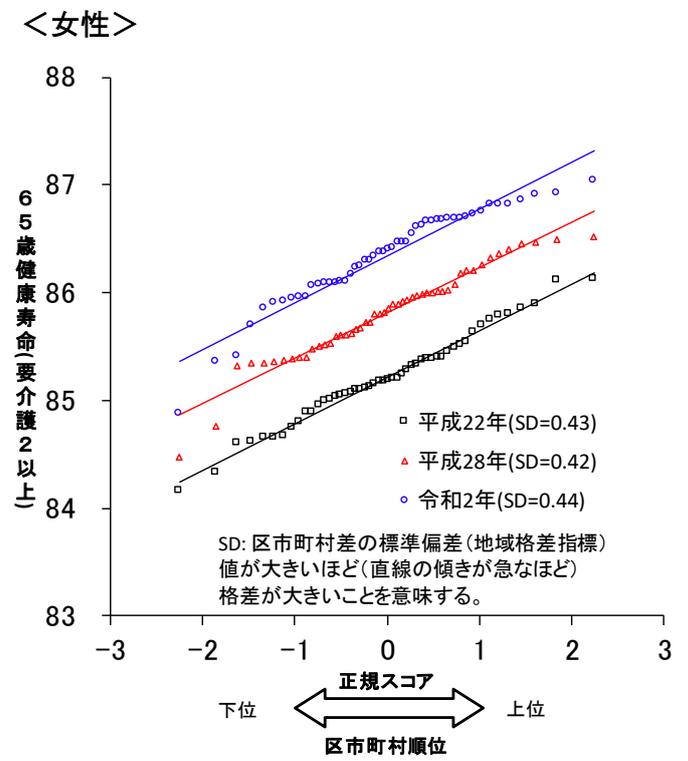
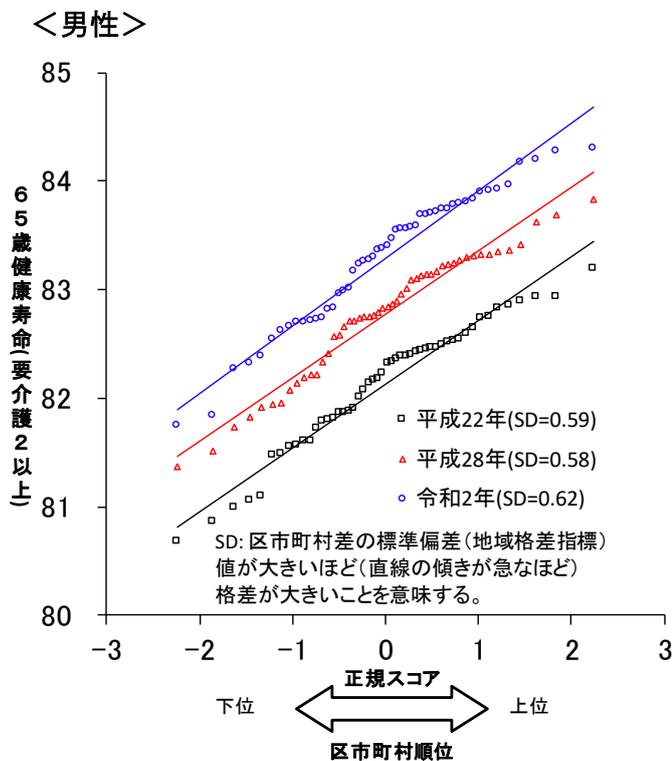
●ベースライン値（平成22年）と現状値（令和2年）を比較すると、最大値と最小値の差は0.18歳拡大した。

区市町村別65歳健康寿命（要介護2以上）の最大値と最小値の差（範囲）の比較  
（平成22年、平成28年、令和2年）



※H22は、青梅市の数値が把握できなかったため、上記の図には青梅市を含まない。

区市町村別65歳健康寿命（要介護2以上）の分布の推移（平成22年、平成28年、令和2年）



※H22は、青梅市の数値が把握できなかったため、上記の図には青梅市を含まない。

指標の推移と評価案

指 標		指標の 方向	ベースライン値 (平成 22 年)	中間評価値 (平成 28 年)	中間 評価	現状値 (令和 2 年)	最終 評価(案)
区市町村別 65 歳健康 寿命 (要介護 2 以上) の最大値と最小値の差	男性	縮小	2.51 歳	2.47 歳	B	2.55 歳	B
	女性		1.98 歳	2.05 歳		2.16 歳	